

文化ファッション大学院大学の

現状と課題

自己点検報告書

平成 23 年度

平成 24 年 7 月

## 『平成 23 年度自己点検報告書』作成にあたって

本大学院における自己点検・評価の具体的な活動を今年度は

『文化ファッション大学院大学の現状と課題 自己点検報告書 平成 23 年度』

として報告書にまとめた。

本大学院の各種委員会、専攻会議等の取り組みを集約し、この点検・評価の報告書に各組織における審議遂行された現状と自己点検、改善方策等の主要内容を明記し、本大学院の教育目標に共通認識を持って改善の方策に取り組めるよう取りまとめた。

この報告書を作成することを通じ、年度を振り返り、あらためてよかった点、次年度への課題等がみえてくる。このPDCAサイクルを繰り返していくことで、本大学院の教育研究活動等が年毎によくなっていることを実感している。

平成 24 年 7 月

教育・研究委員会

# 目次

	ページ
事業計画	1
事業報告	4
ファッションクリエイション専攻会議	11
ファッションマネジメント専攻会議	16
教育・研究委員会	22
学生生活委員会	28

## 平成 23 年度文化ファッション大学院大学 事業計画

1. 教育、授業関連、学科編成 等
  - 1) ファッションマネジメント専攻において、社会人経験者向けの新プログラム「起業プログラム」を立ち上げるにあたり、新しい科目として「ファッションビジネス起業論」「ファッションビジネス起業事例研究」「デジタル・ファッションビジネス・プロデュース（仮称）」を設置する。
  - 2) 夏期公開講座を7月に実施する。
  - 3) 企業、バイヤー向け展示会に授業の一環として参加する。
  - 4) 海外で開かれるコンテストや展示会等に校名告知・広報等のため積極的に参加する。
  - 5) 海外でのインターンシップを推進する。
  - 6) 「履修」、「シラバス」の作成、登録等の業務合理化のため、システムを導入する。
2. 教員の研究、研修、FD（教育や研究、研修における重点課題）、職員のSD 等
  - 1) 教員の教育研究活動向上のために、授業評価に留まらず総合的な評価を含め組織的なFD体制を整備する。
  - 2) 授業アンケートの回収率向上のための改善策を検討する。
  - 3) 専任教員のFD研修会を複数実施する。
3. 教育支援プログラム等の申請、推進

「BFGUファッションウィーク」について他大学にはない性質のイベントであり、文部科学省の「専門職大学院教育推進プログラム」に申請する。
4. 自己点検、自己評価の取り組み
  - 1) 「本大学院大学の現状と課題」について、各専攻や各委員会において当該年度の課題を設定し、その取り組みの結果と点検・評価及び次年度への課題を抽出し、年度末に自己点検報告書としてまとめる。
  - 2) 「機関別・分野別認証評価」実地調査においての評価委員からの参考意見等をふまえ、積極的に改善、改革に着手する。
5. 産官学との連携 社会連携、地域連携 高大連携 多様なコラボレーション 等  
コースごとに、採算を考慮しながら産学連携を積極的に実施する。
  - 1) ファッションクリエイション専攻  
ファッションデザインコース
    - ①夏期公開講座 教員 2011・7

②地場産業とのコラボレーション（テキスタイルによる作品制作）

③ r o o m s 展示参加 複数学生 2011・10 2012・3

④ P L U G I N 展示参加 複数学生 2011・10 2012・3

ファッションテクノロジーコース

①東京都職業能力開発校視察訪問

②財団法人日本繊維製品品質技術センター視察見学

③茨城県古河市の縫製工場にて生産管理の研修授業

④愛知県・岐阜県・石川県・富山県・新潟県の生地産地、縫製工場、副資材メーカー、テキスタイル素材加工会社の視察見学（2泊3日）

2) ファッションマネジメント専攻

ファッション経営管理コース

①企業から受託の、不定期の社員教育講座（企業からの依頼による）

## 6. 国際交流

1) オーストリア・ウィーン市ファッション大学とのコラボレーション

\*相互の学生による作品制作及びファッションショー開催 学生

\*学生・業界への講演 教員

\*卒業作品審査 教員

2) 上海東華大学 講演 教員

3) ブラジル政府（SPFW含む）の招聘による業界向け講演 教員

4) タイ・バンコク テキスタイルエキスポ（日本におけるJCと同様のもの）からの依頼による、学生作品10点提供（タイの天然素材使用）学生教員 2011・4  
（学生現地参加などは未定）

5) フランス・パリ市プレタポルテ協会主催 ポルト・ド・ヴェルサイユ（ウイメンズウエア展示会） ファッションショー及び展示会参加

6) フランス・パリ市オートクチュール協会主催 パリコレクション展示会参加  
（未定）

7) ロシア・サンクト・ペテルブルク市 アートフューチャーデザインスクール（大学） デザインコンテスト 参加及び審査員

8) マルセイユ・モンテカルロ市主催ジーンズデザインコンテスト参加及び審査員

9) ドイツ・ミュンヘン市芸術大学とのデザインコラボレーション

10) ロンドン・パリ・ニューヨーク等視察研修実施

## 7. 学生募集、広報活動 卒業生との連携 等

1) ホームページについて、学生取材記事等を増やしたり、キャリア支援を充実させたりと入学希望者にとってより魅力的な内容を盛り込んでいく。さらに英語版を立ち

上げ、より広く海外へ本学をアピールする。

- 2) 入学案内について、教員やカリキュラムに加えて在学生や修了生の取材記事を多く取り入れ、内容を充実させる。

#### 8. キャリア形成 就職支援

「キャリア形成支援委員会」において、より具体的な就職支援策を検討する。例えば、非常勤講師や外部の専門機関に依頼して「キャリアガイダンス」の実施、専任教員（特に実務家教員）による「トークセッション」等を実施する。

#### 9. 学生支援（奨学金、報奨制度、学生生活の活性化、経済支援等）

- 1) 「第一種、第二種奨学金」（日本学生支援機構）受給希望者を募る。
- 2) スカラシップ制度により学生の成績向上を図る。
- 3) 業績優秀者への奨学金返還免除制度を活用する。

#### 10. 留学生の対応 支援

- 1) 学習奨励費（日本学生支援機構）給付希望者を募る。
- 2) 成績優秀者に対し、文部科学省からの「国費外国人留学生」を推薦する。
- 3) 民間、各団体等の奨学金を申請する。

#### 11. 教育環境整備

- 1) 在学生数増加に伴う実習室・自習室の確保および改修、コンピュータ機器の増設、アプリケーションの追加。
- 2) 事務職員の職場環境を改善するため、事務室を移動及び拡張する。
- 3) ファッションクリエイション専攻において、より高度な作品制作のために「シームシーリングマシーン」を導入する。

#### 12. 人事 組織等

- 1) 経営状況を視野に入れ、専任教員の世代交代に向けて若い教員（修了生）の補充育成を考えていく。
- 2) 専門職大学院として実務家教員を充実させる。
- 3) 事務職員について、これからキャリア形成支援等の業務に力を入れていくために、専門性を兼ね備えた職員を補充していく。
- 4) 私学の経常費補助金特別補助について、大学としてはもちろん、専門職大学院としての項目等もすべて申請するように精査していく。

## 平成 23 年度文化ファッション大学院大学 事業報告

### 1. 教育、授業関連、学科編成 等

- 1) ファッションマネジメント専攻において、社会人経験者向けの新プログラム「起業プログラム」を立ち上げるにあたり、新しい科目として「ファッションビジネス起業論」「ファッションビジネス起業事例研究」「デジタル・ファッションビジネス・プロデュース（仮称）」を設置する。

結果 : 平成 23 年度より「起業プログラム」を開始したが、当プログラムを志望した院生はいなかった。そのため、「ファッションビジネス起業論」「ファッションビジネス起業事例研究」は開催されなかった。しかし、当科目は平成 23 年度入学生からは、2 年次の選択科目となっていることから、平成 24 年には開講される。

「デジタル・ファッションビジネス・プロデュース」は、平成 23 年度入学 1 年次生の後期選択科目として開講された。

- 2) 夏期公開講座を 7 月に実施する。

結果 : 7 月 9 日、10 日の 2 日間、「クリエイターのためのデザイン・テクノロジーメソッド」—オマージュとイマージュ、そしてテクニク— を開講した。1 日目は、「オマージュとイマージュ」をキーワードに歴史に残るデザインからインスピレーションを受けた創造性あふれる作品を説明し、またトレンドをデザインに取り入れたオリジナル作品の解説やファッション界をリードする国内有名デザイナーの実物作品や院生の作品も会場内に一堂に配し、解説を行った。

2 日目は、実際に作品を仕上げるためのテクニク等実習を交えながら解説した。薄物素材に焦点をあて、企業との共同開発により誕生した薄物素材専用のミシン糸「エースクラウンハイパーソフト」を使用し、ブラウスを制作した。受講者は 31 名。

- 3) 企業、バイヤー向け展示会に授業の一環として参加する。

結果 : 4. コラボレーションに記載

- 4) 海外で開かれるコンテストや展示会等に校名告知・広報等のため積極的に参加する。

結果 : 4. コラボレーションに記載

5) 海外でのインターンシップを推進する。

結果 : ファッションマネジメント専攻では、2 名が中国で、1 名が台湾でインターンシップを行った。

6) 「履修」、「シラバス」の作成、登録等の業務合理化のため、システムを導入する。

結果 : 「シラバス」をウェブで展開することは、教育内容を外部に公開するために有効な手段であり、今後の学生募集に活かすために導入した。

## 2. 教員の研究、研修、FD（教育や研究、研修における重点課題）、職員のSD 等

1) 教員の教育研究活動向上のために、授業評価に留まらず総合的な評価を含め組織的なFD体制を整備する。

結果 : 定例の「教育・研究委員会」の中に「ファカルティディベロップメント委員会」を組み込み、常にFD研修等について検討・討議した。

2) 授業アンケートの回収率向上のための改善策を検討する。

結果 : 各科目の最終授業の中で、15 分間のアンケート記入時間を設けその場で助手が回収するという方法を取った。回収率は一昨年の 46.7%から 65.1%と上昇した。

3) 専任教員のFD研修会を複数実施する。

結果 : ・3 月にアルカディア市ヶ谷に於いて、教員全員参加による研修会を実施した。内容は、日本私立大学協会事務局長の小出秀文氏に「私立大学をめぐる諸情勢と専門職大学院におけるFD研修会について」をテーマに講演いただき、次に文部科学省高等教育局専門教育課専門職大学院室長の今井裕一氏に「専門職大学院の質保証」をテーマに講演いただいた。  
・3 月に授業アンケート内容確認および検討を実施した。  
・3 月に私学高等教育開発センター主催の第 51 回公開研究会「ルーブリックとティーチングポートフォリオによるFDについて」に教員全員が参加した。

## 3. 教育支援プログラム等の申請、推進

「BFGUファッションウィーク」について他大学にはない性質のイベントであり、文部科学省の「専門職大学院教育推進プログラム」に申請する。

結果 : このプログラムの募集がなかったため応募できなかった。

## 4. 産官学との連携 社会連携、地域連携 高大連携 多様なコラボレーション 等

コースごとに、採算を考慮しながら産学連携を積極的に実施する。

#### 1) ファッションクリエイション専攻

##### ファッションデザインコース

- 結果 :
- ・株式会社丸井による「お客様共同開発によるレディースパンツ」のプロモーションにおいて、教員がパンツの構造や機能性などを中心に専門的な立場からアドバイスを行った。(4月)
  - ・株式会社コム デ ギャルソンの 2011 年度新入社員対象に「プロフェッショナルとしての店頭販売の知識」という演題のもと、担当教員が各専門に分かれ講義を行った。
  - ・ウェア中心の合同展示会「PLUG IN BFGU EXPRESSION」に院生作品 10 体を出展した。(4月)(10月)
  - ・新潟県と本大学院の共同企画で、新潟県の繊維産業の技術力と新進気鋭な若手クリエイターによるコラボレーションを実施した。参加した 5 ブランドのデザイナーは、新潟の産地を訪問して意見交換を行い、その後、デザイナーと企業のマッチングが行われ、実際に作品を制作した。その成果を、渋谷の文化ファッションインキュベーションに於いてファッションショー及び展示で発表した。レセプションパーティーも行われ、交流を図った。(5月)
  - ・ファッション誌「VOGUE」のスタイリストが第 85 回装苑賞で佳作 2 位を受賞した院生の作品に注目し、レディーガガが来日する際の衣裳としてオファーを受けた。実際には、受賞した作品を黒に塗り替えレディーガガが着装し、日本テレビ放送「ミュージック・ラバーズ」で放送された。(7月)
  - ・しぶやコンシェルジュは、街の案内人として渋谷の街歩きのガイドを行う一般社団法人の活動。その活動の際にスタッフが着用するユニフォームのデザインおよび縫製を 2 年次生 2 名が手掛けた。(7月)
  - ・人気漫画「スマグラマー」が映画化され、装苑がスマグラマー特集を企画した。それに伴い出演者の俳優安藤政信氏着装衣裳を 2 年次生 4 名がデザイン・制作を行った。俳優永瀬正敏氏とスタイリスト伏見京子氏がディレクションを担当、オカダヤの素材提供によって 2 体製作し、9 月 27 日より 1 ヶ月の期間、オカダヤ新宿本店にて展示された。
  - ・「5<sup>th</sup> FORM PRESENTATION」は、一般社団法人日本ファッションウィーク推進機構主催の JFW ジャパン・クリエイション内において企画された産学コラボレーションであり、1 年次生 2 名がポートフォリオ審査を通過し、尾州の繊維企業を視察し、生地を企業と共同製作して 3 体の作品を仕上げ展示した。(10月)

- ・ウェア中心の合同展示会「PLUG IN BFGU EXPRESSION」に作品 8 体を出展した。  
(10 月)
- ・小松精練株式会社より、展示会に出展する新商品の提案を受け、デザインコース生 10 名がその新素材を使用し、作品 10 体を制作した。(11 月)
- ・小松精練株式会社よりパリで開催される展示会「プルミエール・ヴィジョン・パリ」に出展する新商品の提案を受け、デザインコース生 5 名がその新素材を使用し、作品 5 体を制作した。(2 月)
- ・アッシュ・ペー・フランス株式会社主催による合同展示会「rooms24」の若手支援ブース (YELLOW BOOTH) に作品を出展した。(2 月)

#### ファッションテクノロジーコース

- 結果 :
- ・日本モデリスト協会との共同研究により「国際サイズ・中国編」を発行した。(4 月)
  - ・財団法人日本繊維製品品質技術センターにおいて、品質試験・外観検査等に関する解説及び機器の説明を受けた。(6 月)
  - ・縫製工場株式会社センチュリーテクノコアにおいて、工場の受注から出荷までのプロセスを把握し、生産管理データ (工程分析とタイム測定) を調査・分析・検討を行った。そして問題点の抽出をして改善ポイントをまとめ、工場へ提案した。(6 月)
  - ・株式会社伊勢丹との商品共同開発をした。クローバーサイズのワンピースやブラウスなど計 8 点を同店のお客様と院生にてデザイン、サイズ感や細かなディテールまでを打ち合わせ、その中の数点を院生がサンプル製作した。そして本生産までの修正を経て 9 月より店頭販売された。(6 月～9 月)
  - ・株式会社ゴールドウィンテクニカルセンターとの業務委託契約において、社内パターン技術指導及び講義 (アパレルとスポーツウェアのコラボレーション) と、スポーツウェアにおける機能パターンの共同研究を行った。(8 月～2 月)
  - ・株式会社杉本プリーツにおいてプリーツ製作工程の見学、2 年次修了研究作品においてプリーツ加工の協力を得た。(11 月)
  - ・知的縫製システム研究会にて共同開発された「エースクラウンハイパーソフト」の実用検証を行った。検証結果を研究報告会にて本学教員が発表した。  
(3 月)

## 2) ファッションマネジメント専攻

### ファッション経営管理コース

結果 : 株式会社アイシーエル (サザビーリーグのグループ企業) より、中国・韓国・台湾での、生活者のライフスタイル調査を依頼され、中国・韓国・台湾からの院生が、専任教員の指導のもとで現地調査を実施・分析し、調査報告書を作成、プレゼンテーションを行った。

## 5. 国際交流

結果 : ・今年で3回目となる、ウィーン市立ファッション大学ヘッツェンドルフ校との交流プログラムを実施した。歴史的建造物であるヘッツェンドルフ校の中庭に建てられたテントを会場にジョイントショーが開催され、4名の院生が参加し26体の作品を発表した。会場に集まった約500人の来場者からは大きな拍手がおこり、高評価を得た。(6月)

- ・フランスのパリ・プレタポルテ協会の要請を受け、パリで開催された同協会主催「PRET A PORTER PARIS 展」に参加した。6体の院生作品展示と33体で構成したファッションショーを実施した。(9月)
- ・イギリスのノッティンガム・トレント大学の大学院生4名がポールスミス奨学金でファッション研修を目的に来校。ニット実習室見学や授業見学および交流を図った。(10月)
- ・ベトナム貿易産業省が派遣する研修員3名が専門知識と技術の向上を目的として来校。ニット実習室見学や授業見学および交流を図った。
- ・ロシア・サンクトペテルブルグにて開催された「International Competition of Young Designers The Admiralty Needles」に教員が招待され、作品を出展した。「プレタポルテ・デラックス」「アヴァンギャルド」部門に2年次4名が参加し、3名がファイナルに進出した。教員は同コンテストの審査員および講義も行った。(11月)
- ・BFGU FW (2012.1.30~2.3開催)において、オーストリア・ウィーン市立ファッション大学ヘッツェンドルフ校、ロシア・サンクトペテルブルク国立技術デザイン大学と本学デザインコース2年次によるジョイントショーを開催し、同時にスワロフスキー・エレメントを使用した作品もショー及び展示で披露した。

また、Liuba Rubenyan 教授 (ロシア) による「ロシアのアヴァンギャルド」、小杉早苗教授 (BFGU) による「Current Fashion in Japan」をテーマに講義を行うとともに、3校の学生による作品プレゼンテーションおよびディスカッションを行った。

## 6. 学生募集、広報活動 卒業生との連携 等

- 1) ホームページについて、学生取材記事等を増やしたり、キャリア支援を充実させたりと入学希望者にとってより魅力的な内容を盛り込んでいく。さらに英語版を立ち上げ、より広く海外へ本大学院をアピールする。

結果 : ホームページにおける情報の公開について、これまで教育研究上の基礎的な情報は公表してきたが、それに加えて教員組織や各教員が有する学位及び業績、入学者に関する受け入れ方針、入学者数、在学者数、修了者数、進学者数、就職者数、授業科目、授業の方法及び内容や、システムを導入しての年間の授業計画(シラバス)、修了認定にあたっての基準を明確にしたこと等、修学上の情報を公開した。入学希望者が本学をより深く理解し、一層の興味を持てるような内容への改善を試みた。また、11月に基本情報の英語版を立ち上げた。

- 2) 入学案内について、教員やカリキュラムに加えて在学者や修了生の取材記事を多く取り入れ、内容を充実させる。

結果 : 特別企画として、小杉研究科長と各コースの代表者1名ずつ計4名の座談会を「教授×BFGU生が語るそれぞれのBFGUライフ」というテーマで実施し、その模様を詳細に紙面に掲載した。また、それぞれのコースの起業した修了生や就職して活躍中の修了生へのインタビュー記事を掲載した。

## 7. 就職対応

「キャリア形成支援委員会」において、より具体的な就職支援策を検討する。例えば、非常勤講師や外部の専門機関に依頼して「キャリアガイダンス」の実施、専任教員(特に実務家教員)による「トークセッション」等を実施する。

結果 : 今回は外部の専門機関ではなく、学生生活委員会の委員長をはじめとする専任教員(実務家教員を含む)が中心となり、企業の人事部の方の講義も交えてキャリアガイダンスを計5回実施した。参加者は前年を上回る人数で大変好評だった。委員会の先生方には個別指導もしていただいた。

## 8. 教育環境整備

- 1) 在学生数増加に伴う実習室・自習室の確保および改修、コンピュータ機器の増設、アプリケーションの追加。

結果 : 学生数増加対応のため、実習室パソコンを4台購入した。

2) 事務職員の職場環境を改善するため、事務室を移動及び拡張する。

結果 : 8月の一斉休暇時に、I館1階の研究科長室と学長室の壁を撤去して一部屋にし、そこを教学事務室とした。研究科長室と学長室は従来の教学事務室を二分し改装した。

3) ファッションクリエイション専攻において、より高度な作品制作のために「シームシーリングマシン」を導入する。

結果 : スポーツウェア等に見られる溶着による無縫製仕立てを教育・研究するため「超音波溶着機(シームシーリングマシン)」を購入した。同時にそれとほぼ同額の「連続式熱板溶着機」と「ヒーター&冷却プレス機」の寄贈を受けた。

この機械は、学校はもちろん、企業にも導入しているところはほとんどなく、入れた当初は企業からの見学依頼や、文化服装学院や文化学園大学の教員からの研修依頼が多く寄せられた。院生にとっても、通常のマシンとは違った新しい技術を学ぶことが出来て非常に有益であった。

## 9. その他事項

1) 学生支援(奨学金、報奨制度、学生生活の活性化、経済支援等)

- ①「第一種、第二種奨学金」(日本学生支援機構)受給希望者を募る。
- ②スカラシップ制度により学生の成績向上を図る。
- ③業績優秀者への奨学金返還免除制度を活用する。

結果 : ①第一種奨学金 8名、第二種奨学金 7名 ⇒ 希望者は全員採用

- ②スカラシップ制度適用者 6名
- ③全額免除者 1名、半額免除者 2名

2) 留学生の対応 支援

- ①学習奨励費(日本学生支援機構)給付希望者を募る。
- ②成績優秀者に対し、文部科学省からの「国費外国人留学生」を推薦する
- ③民間、各団体等の奨学金を申請する。

結果 : ①学習奨励費 7名採用

- ②国費外国人留学生 1名採用
- ③平和中島財団奨学金 1名採用、ウシオ育英文化財団奨学金 1名採用

■ファッションクリエイション専攻 専攻会議

報告者：小杉 早苗

提出日：平成 24 年 7 月 6 日

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.若手教員の論文発表について             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 若手教員による「紀要論文集」投稿</li> <li>(2) ファッションビジネス学会における発表、論文投稿を促して、教授に反映させる</li> </ol> </li> <li>2.外部とのコラボレーション             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教員と各種業者との相互研究（委託事業を含む）の促進</li> <li>(2) 院生と各種業者との相互研究（委託事業を含む）の促進</li> <li>(3) 国内外からの受け入れ</li> </ol> </li> <li>3.夏期特別講座実施             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 専攻の特徴を出した内容で学内外に向けて行う</li> </ol> </li> <li>4.入学者数拡大について             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教学事務室との協力と、入試説明会</li> <li>(2) 各教員特別講義要請受諾の際、学校案内も加える</li> <li>(3) 各活動を詳細に亙りホームページに掲載、理解を促す</li> </ol> </li> <li>5.年度末のファッションウイーク（BFGU FW）             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ファッション界に対する提案と同時に、専攻の認知度を上げる</li> </ol> </li> </ol>
<p>取り組みの結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.若手教員の論文発表について             <p>ファッションビジネス学会クリエイション教育部会の活動を活発化させ、親学会における発表とともに、学内の紀要論文集投稿など若手全員が参加 原書論文 4 本 研究報告 2 本</p> </li> <li>2.外部とのコラボレーションについて             <p>各コースとも教員による企業への指導、新入社員の専門教育、地場産業・メーカー・学校（外国を含む）など複数のコラボレーションを成功させ、院生についても国内外でのコラボレーション（世界的ミュージシャンへの衣装提供、ファッションショー、ファッションコンテスト参加など）を成功させた</p> </li> <li>3.夏期特別講座について             <p>各コースとも非常に特徴のある講座を展開でき、受講生は企業の方々、教員、学生など多岐に亙って展開</p> </li> <li>4.入学者数拡大について             <p>3/11 震災の影響が出るかと懸念した割には学生数が減少しなかった。特に留学生の数が確保できたので、入学生全体では定員を上回った。</p> </li> <li>5.年度末のファッションウイーク（BFGU FW）             <p>今年度は大きいテーマとして「テクノロジー」を掲げたが、シンポジストと</p> </li> </ol>

	<p>してデザイナー三宅一生氏・JAXA山口孝夫氏・ゴールドウイン沼田喜四司氏を招くことができ、広義のテクノロジーとして意義を主張することに成功。</p> <p>6.修了年次生が国内最高の（世界でも有数の）ファッションデザインコンテストでグランプリを獲得、その他のコンテストでもグランプリ獲得さらに数多くの入賞者を輩出し、デザイナー教育の成果が出た</p>
<p>次年度への課題 (平成 24 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.テクノロジーコースの中に「ファッションプロダクトディレクター」を目指す学生のために、プログラムとして設けたが開学以来希望する学生がないため、存続及びカリキュラムについて検討の必要</li> <li>2.入学生数について、今年度は 3/11 震災の影響が出なかったが、必ず影響が出るので、入学生獲得のため尚一層入試広報に力を入れる</li> <li>3.経済の動向から社会全体がやや落ち着きを取り戻して来ているかに観測されるので、院生の教育環境、設備、施設などすべてにおいて充実を目指す</li> </ol>

開催年月日	会議等の開催記録
平成 23 年 4 月 7 日	1. 新年度を迎え、各コース新入生の状況について (1) 留学生数の増加（デザイン／テクノロジーコース） 2. 23 年度夏期特別講座の講義内容について (1) 夏期特別講座について、教育・研究委員会に提案 3. 校歌について (1) 入学式・卒業式での「君が代」斉唱は必要か、校歌の必要性を、教育・研究委員会で検討を要望
平成 23 年 5 月 12 日	1. 文化ファッション大学院大学規程集の変更・削除の内容と対応について (1) 各教員への規程集の変更・削除の内容、対応表の配布 2. 夏期特別講座準備状況について (1) テクノロジーコース→株式会社 サンコロナを訪問、本年度夏期特別講座の趣旨、講座内容について説明した上で縫製実習使用生地の協力を依頼 (2) デザインコース→コンセプトの設定、絵型の選定 3. 各教員報告事項抜粋 (1) ゴールドウイン株式会社との産学協同研究会の計画 (2) CREATION NIIGATA 2011 の進行状況 (3) ウイーン ヘッシュェンドルフ校とのコラボレーション企画の進行状況
平成 23 年 6 月 9 日	1. 入試説明会日程 2. 2011 年度夏期特別講座について 3. 各教員報告事項抜粋 (1) デザインコース 2 年の装苑賞佳作 2 位の作品がレディガガ 6 月来日公演の衣装の候補にあがる (2) テクノロジーコース 1・2 年伊勢丹 2011 年 FW お客様×BFGU×伊勢丹によるコラボレーション企画と夏期特別講座の進行状況
平成 23 年 7 月 14 日	1. 2011 年度夏期特別講座、アンケート結果について 2. 学内入試説明会の状況報告 3. 各教員報告事項抜粋 (1) 夏期特別講座を終えた感想 (2) 繊維ファッション産学協議会主催 FORM PRESENTATION にデザインコース 1 年生 1 組が入選 (3) ウイーンヘッツェンドルフ校とのコラボレーション企画の出張報告
平成 23 年 9 月 8 日	1. 9 月 14 日（水）～9 月 16 日（金）の夏期北竜湖セミナーについて 2. 各教員報告事項抜粋 (1) スワロフスキーとのコラボレーション企画の進行状況

開催年月日	会議等の開催記録
平成 23 年 10 月 6 日	1. 夏期北竜湖セミナー アンケート集計結果配布、来年度に向けて改善点、問題点を提案 2. 各教員報告事項抜粋 (1) フランス出張 (9 月) (PRETA PORTER PARIS) の報告 (2) 本年度パターンメイキング検定 1 級合格者 5 名 (3) I S O サイズ委員会出席の報告
平成 23 年 11 月 10 日	1. 教学事務室より各教員に「研究費についてのアンケート」用紙が配布される、各自記入のうえ提出 2. 入試説明会 11 月 3 日 (木) の報告 3. B F G U FW 2 月 2 日 (木) の展示時間について (1) デザインコース 1 年生展示時間延長を提案、集客を予測の上これについて検討 4. 各教員報告事項抜粋 (1) ロシア出張報告 St. Petersburg State University of Technology and Design INTERNATIONAL COMPETITION OF YOUNG FASHION DESIGNERS "ADMIRALTY NEEDLE" (2) パリ研修旅行引率の報告 (3) 「ジャパンファッションの再生日本発ものづくりから考える。」 (10 月 22 日 (土) 文化インキュベーション) の報告
平成 23 年 12 月 1 日	1. 教学事務室より平成 24 年度、教授会、専攻会議の予定表を配布 2. 各教員報告事項抜粋 (1) B F G U FW 準備の進行状況 (2) デザインコース、小松精練とのコラボレーション企画の報告 (3) 繊維ファッション産学協議会主催 FORM PRESENTATION デザインコース 1 年優秀賞を受賞
平成 24 年 1 月 12 日	1. 教学事務室より II 期入学試験 (1 月 14・15 日) 科目、担当表を配布 2. 各教員報告事項抜粋 (1) B F G U FW 準備の進行状況 (2) 小松精練プルミエールビジョン出展におけるデザインコース学生 5 名の作品展示が決定 (3) B S ジャパン「大人のリメイク」に出演
平成 24 年 2 月 9 日	1. 教学事務室よりシラバスのウェブ公開に伴う、入力についての説明会の案内 2. B F G U FW 来場者数の報告 3. B F G U ホームページ英語版のアップ

開催年月日	会議等の開催記録
	<p>4. 各教員報告事項抜粋</p> <p>(1) BFGU FWを終えた反省、感想、提案</p> <p>(2) テクノロジーコースと株式会社ゴールドウインの業務提携についての報告</p> <p>(3) デザインコース2月16日(木)～2月17日(金)「新潟県繊維工場探訪ツアー」学生12名を引率</p>
平成24年3月1日	<p>1. 教学事務室よりBFGUホームページ 第4回BFGU FW開催レポートをアップ</p> <p>2. 各教員報告事項抜粋</p> <p>(1) 株式会社ゴールドウイン研修講師の報告</p> <p>(2) 24年度コムデギャルソン社員研修の準備</p> <p>(3) ファッションビジネス学会ファッション教育研究部会の研究発表準備</p> <p>(4) テクノロジーコース2年生、修了展示に対するアパレル工業新聞社の取材対応とその報告</p>

■ファッションマネジメント専攻 専攻会議

報告者：山村 貴敬

提出日：平成 24 年 7 月 5 日

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ファッション経営管理コース 1 年生については、震災により入学延期者が出たものの、新入学生が 28 名となった。 (1) 但し来日が遅れる学生への対応が必要とされる。 (2) 基礎研究プロジェクトの新たな取組みが必要とされる。</li> <li>2. 今年度より、起業プログラム導入により、新規科目がスタートする。</li> <li>3. ファッション経営管理コース 2 年生については、プロジェクト科目の充実をはかる。</li> <li>4. 学生数の増加により、ゼミ指導の教室確保が難しくなるため、効率よい運用が必要となる。</li> </ol>
<p>取り組みの結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新入学生への対応について (1) 入学時導入集中授業（単位認定しない科目）について、震災により来日が遅れた学生に対し、4・5 月の火曜 1・2 時限を活用して実施した。 (2) 1 年次基礎研究プロジェクト発表会は 2 会場で並行して行った。そのため前半のグループ研究についての成績評価は全員が行ったが、後半の個人研究の成績評価については分担して行った。</li> <li>2. 起業プログラムについて、社会人経験 3 年以上の該当者はいたものの、当プログラムを選択した学生はいなかった。そのため、今年度は新規科目を開講しなかった。</li> <li>3. 「フィールドプロジェクト」では、はじめてファッション企業から受託調査研究を行った。</li> <li>4. プロジェクト科目のゼミ指導は、ゼミ担当教員が学生と相談しながら、指導時間を調整するなど運用面に心がけた。</li> </ol>
<p>次年度への課題 (平成 24 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員構成の変化、新科目導入に合わせて、科目担当者の配置、ゼミ指導の方法などを検討する。</li> <li>2. 起業プログラムについては、前年度は選択した学生がいなかったが、今年度は選択する学生が見込まれることから、新たに 2 つの科目を開講する。</li> <li>3. 1 年次の「基礎研究プロジェクト」は、2 科目に分割し、前期のグループ研究を「基礎研究プロジェクト I」、後期の個人研究を「基礎研究プロジェクト II」とする。「基礎研究プロジェクト I」について、次年度は夏期北竜湖セミナーを両専攻共通科目である「ファッションビジネスメソッド」に割り当てる関係で 4 月開講とするため、新たな取組みが必要とされる。</li> <li>4. 渋谷のインキュベーション施設を活用して外部受講者向けの夏期講座を開催する。</li> </ol>

開催年月日	会議等の開催記録
平成 23 年 4 月 7 日	<p>1. ファッションマネジメント専攻在学生について</p> <p>(1) 2 年生 22 名でスタート</p> <p>(2) 震災により来日が遅れた学生へのフォローは、火曜日 1・2 時限を活用し、補講等行うことに決定。</p> <p>(3) 5 月以降は欠席扱いとすることに決定。</p> <p>2. 集中講義について</p> <p>3. 履修指導について</p> <p>4. 修了研究プロジェクトについて</p> <p>(1) 4 月 18 日までに学生よりテーマ提出の後、4 月 19 日 12 : 45 ゼミ担当決定会議を行うことに決定。</p> <p>(2) 論文執筆、報告書作成、事業計画書作成の解説についてのスケジュール</p> <p>5. フィールドプロジェクトについて</p> <p>6. 1 年次基礎研究プロジェクトについて</p> <p>(1) 6 月まではブリーフィング、6 月よりグループ研究開始。</p> <p>(2) 4 月 12 日の基礎研究プロジェクト時間内に学生委員の決定、スケジュールについて学生への説明を行うことに決定。</p> <p>7. その他</p> <p>(1) オフィスアワー提出について</p> <p>(2) 新年度研究室レイアウトについて</p>
平成 23 年 5 月 12 日	<p>1. 修了研究プロジェクトについて</p> <p>2. フィールドプロジェクトについて</p> <p>3. 1 年次基礎研究プロジェクトについて</p> <p>(1) 前半グループ研究のグループ編成、5 月中にテーマ提出、6 月 2 日 (木) 13 : 30 ~ 担当決めミーティングを行うことに決定。</p> <p>4. その他</p> <p>(1) ヨーロッパ研修旅行について決定事項報告</p> <p>9 月下旬 9 日間 ロンドン・パリ</p> <p>展示会日程に合わせ訪問。予定訪問先は、ギープス&amp;ホークス、エルメス工場、プレタポルテ協会トラノイファミ、プルミエールクラス、I F M など検討。</p>
平成 23 年 6 月 9 日	<p>1. 修了研究プロジェクトについて</p> <p>2. フィールドプロジェクトについて</p> <p>(1) サザビーリーグ インターン 受託調査報告終了</p>

開催年月日	会議等の開催記録
	<p>3.1 年次基礎研究プロジェクトについて</p> <p>(1) 中間報告を7月26日1時限(発表時間:10分)全体で行うことに決定。</p> <p>4. その他</p> <p>(1) ヨーロッパ研修旅行について</p> <p>(2) 紀要登録申込みの提出期限の確認</p> <p>(3) 入試説明会開催について</p> <p>(4) 学内入試説明会開催について</p> <p>(5) 北竜湖コース別ミーティングについて</p>
平成23年7月15日	<p>1. 修了研究プロジェクトについて</p> <p>2. フィールドプロジェクトについて</p> <p>3.1 年次基礎研究プロジェクトについて</p> <p>(1) 中間報告について確認</p> <p>(2) 最終報告(提出)は夏期北竜湖セミナーで行う。発表時間は20分に決定。</p> <p>4. 夏期北竜湖セミナー</p> <p>(1) コース別ミーティングの構成</p> <p>5. その他</p> <p>(1) ヨーロッパ研修旅行について</p> <p>(2) 学内向け入試説明会結果報告</p> <p>(3) 学外向け入試説明会開催について</p> <p>(4) IFF見学について</p> <p>(5) ファッションビジネス学会全国大会</p>
平成23年9月8日	<p>1. 夏期北竜湖セミナーについて</p> <p>(1) コース別ミーティング内容について</p> <p>(2) 次年度への提案事項</p> <p>2. 修了研究プロジェクトについて</p> <p>(1) 今後のスケジュールの確認</p> <p>1月上旬サマリー提出、1月中旬論文提出、1月下旬発表会</p> <p>3.1 年次基礎研究プロジェクトについて</p> <p>(1) 個人研究スケジュールについて</p> <p>9月21日(水) 個人研究テーマの提出日を北竜湖で説明</p> <p>9月22日(木) ゼミ担当教員決定会議 11:00~ I-24</p> <p>(2) 次年度基礎研究プロジェクトの提案事項</p> <p>4. 入試について</p> <p>(1) 試験問題作成・打合せ会議</p> <p>(2) 試験日</p>

開催年月日	会議等の開催記録
	5. その他 (1) ファッションマネジメント専攻・海外研修 (2) ファッションビジネス学会全国大会
平成 23 年 10 月 6 日	1. プロジェクト科目について (1) 修了研究プロジェクト 今後のスケジュール (2) 1 年次基礎研究プロジェクト・個人研究今後のスケジュール (3) フィールドプロジェクト 2. 入試について 3. 文化祭 (1) マネジメント専攻展示について (2) 入試説明会マネジメント専攻 説明会担当者及びスケジュール決定 4. その他 (1) ファッションビジネス学会全国大会 (2) 夏期北竜湖セミナー、アンケート集計結果 (3) 校外授業等スケジュール
平成 23 年 11 月 6 日	1. プロジェクト科目について (1) 1 年次基礎研究プロジェクト・個人研究 (2) フィールドプロジェクト 2. 文化祭結果について 入場者数報告 3. 入試について I 期入試結果 4. その他
平成 23 年 12 月 1 日	1. プロジェクト科目について (1) 修了研究プロジェクト 今後のスケジュール (2) 1 年次基礎研究プロジェクト 今後のスケジュール、評価方法の確認 (3) フィールドプロジェクト 2. 入試について (1) II 期入試説明会 / 12 月 3 日 (土) II 期試験日 / 1 月 14 日 (土)、15 日 (日)

開催年月日	会議等の開催記録
	3. その他 (1) BFGU FW (2) 2012 年度教授会・専攻会議日程 (3) 特別講義スケジュール
平成 24 年 1 月 21 日	1. プロジェクト科目について (1) 修了研究プロジェクト 今後のスケジュール (2) 1 年次基礎研究プロジェクト・個人研究 今後のスケジュール (3) フィールドプロジェクト 2. 入試について (1) 判定会議日程について 1 月 17 日(火) 12:45 3. その他 (1) BFGU FW (2) 次年度／文化祭前の1日の活用について(1・2 年のゼミ指導としての活用について)
平成 24 年 2 月 9 日	1. 修了研究プロジェクト～修了判定について (1) 2 月 9 日科目評価会議及び以下のスケジュールの確認を行う。 (2) 2 月 9 日 (木) 15 : 00 科目評価会議にて 2 年修了研究評価を行い、審査委員会に提出する。「修了研究プロジェクト」評価報告を作成する。 (3) 3 月 1 日 (木) 14 : 30 審査委員会にて審査、学位を授与できるか否かの意見を添えて教授会に文書で報告する。学位授与・審査結果報告を作成する。 (4) 3 月 5 日 (月) 修了判定特別教授会を受けて、教授会の結果を研究科長が文書で学長に報告する。 2. フィールドプロジェクトについて (1) 2 月 9 日 (木) 15 : 00 評価会議において、成績表とインターンシップ報告書で採点を行い、評価報告を作成する。 3. 1 年次基礎研究プロジェクトについて (1) 2 月 9 日 (木) 14 : 30 科目評価会議において、総合評価を行い、評価報告を作成する。 4. 入試について (1) III 期試験日 (2 月 25 日 (土)、26 日 (日))、応募状況の確認及び現在の合格者数について 5. 次年度シラバス作成について (1) シラバス作成にあたり、基礎研究プロジェクトと修了研究プロジェクトについて次年度の授業の運営について検討を行う。

開催年月日	会議等の開催記録
	<p>来年度の学生数を考慮し、各種報告会、成績評価など検討。</p> <p>6. その他</p> <p>(1) 次年度より、基礎研究プロジェクトAを基礎研究プロジェクトⅠ—A（前期1単位）と基礎研究プロジェクトⅡ—A（後期1単位）とするように、教育・研究委員会に提案する。（理由—前期グループ研究と後期個人研究の成績評価を分離するため。）</p>
平成 24 年 3 月 1 日	<p>1. 修了判定 学位記授与式について</p> <p>(1) 3月5日（月）16:00 修了判定特別教授会を受けて、教授会の結果を研究科長が文書で学長に報告する。</p> <p>(2) 3月13日（火）学位記授与式 当日スケジュールについて確認を行う。</p> <p>2. 入試結果について</p> <p>(1) Ⅲ期試験結果及び、合格者数について確認。</p> <p>3. 新年度授業について</p> <p>(1) 4月1日より、導入集中授業「ファッションビジネス基礎理論」、「ファッション商品基礎理論」（学外研修含む）実施。</p> <p>(2) 新年度授業開始日の確認。</p> <p>4. 修了研究プロジェクト</p> <p>(1) 新年度授業開始日について確認。4月10日よりスタート。</p> <p>5. 基礎研究プロジェクトⅠについて</p> <p>(1) 授業の進行について</p> <p>集中授業において、テーマの提出について学生に連絡。</p> <p>4月17日授業にてグループ分け（5グループ）、テーマ提出。</p> <p>指導教員 各グループ2名。</p> <p>7月末に発表（プレゼンテーション）を全員出席で行う。</p> <p>成績評価はそれぞれの指導教員が行う。</p> <p>6. その他</p> <p>(1) FD研修について</p> <p>(2) 紀要について</p>

■教育・研究委員会

報告者：小杉 早苗

提出日：平成 24 年 7 月 6 日

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 再編された委員会の円滑化・活性化</li> <li>2. 各種規程の見直し及び改訂</li> <li>3. 入試方法（震災による留学生志願者減予想への対策含む。）</li> <li>4. カリキュラム内容の検討             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 授業内容の見直しによる科目の統廃合の検討</li> <li>(2) 科目名の見直し</li> </ol> </li> <li>5. FDのあり方の検討</li> <li>6. 授業方法の改善             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 授業アンケートの点検・充実</li> </ol> </li> <li>7. 研究の活性化</li> </ol>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 再編された委員会の円滑化・活性化 旧年度教務委員会、カリキュラム検討委員会、ファカルティディベロップメント委員会再編による教育・研究委員会の発足</li> <li>2. 各種規程の見直し及び改訂 奨学金規程改訂 客員教授規程 休学・復学に関する細則の変更</li> <li>3. 入試方法（震災による留学生志願者減予想への対策含む。）</li> <li>4. カリキュラム内容の検討             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 授業内容の見直しによる科目の統廃合の検討</li> <li>(2) 科目名の見直し  7/26、10/13、11/15、12/8、1/19、2/14 (1)・(2) とともに各コースからの申請による改訂</li> </ol> </li> <li>5. FDのあり方の検討 開学時に立ち返って教職全員による文科省・私大協のセミナー受講</li> <li>6. 授業方法の改善 授業アンケートの点検・充実 教育環境の拡充 教育設備・施設・仕器の充実 教員数の増強など</li> <li>7. 研究の活性化 原書論文集 7 本、研究報告 2 本</li> </ol>

<p>次年度（平成 24 年度） への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.各種規定の見直し・改定</li> <li>2.入試方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 内容の検討</li> <li>(2) 受験資格の内容検討</li> </ol> </li> <li>3.カリキュラム内容の検討</li> <li>4.FDのあり方の検討</li> <li>5.授業方法の改善</li> <li>6.コース内プログラム見直しによる科目統廃合の検討</li> <li>7.キャリア支援の内容・拡充</li> <li>8.学生会・同窓会発足に向けて</li> </ol>
-------------------------------	--

開催年月日	会議等の開催記録
平成 23 年 4 月 14 日	<p>1. 委員会役員選任後、下記審議</p> <p>(1) 新委員会規程</p> <p>(2) 平成 23 年度在籍数</p> <p>(3) 平成 24 年度募集 日本語能力について、「日本語能力試験 N2」以上へ他。</p> <p>(4) 本年度「自己点検報告書」課題等</p> <p>(5) 夏期特別講座 F クリエイション専攻は両コース合同実施予定、F マネジメント専攻は業界人向けプログラムを実施予定。</p> <p>(6) 国歌、国旗、校歌等</p> <p>(7) 企業懇談会</p> <p>(8) 会計検査院実地調査 日程：7/11～13、対象期間：平成 20・21 年度</p>
平成 23 年 5 月 17 日	<p>(1) 今夏消費電力削減対策</p> <p>(2) 本年度「自己点検報告書」課題等</p> <p>(3) 夏期特別講座 7/9・10 に実施。DM 発送、ホームページ掲載、学内告知等により広報していく。</p> <p>(4) ファッションビジネスメソッド・担当教員</p> <p>(5) 新規非常勤講師</p> <p>(6) 海外の修了生からの資料（個人書類）請求 過去のコンテスト受賞暦等を記載する個人書類をこれまで無償で対応してきたが、有償で対応することとする。発行には 2 週間を要する。</p>
平成 23 年 6 月 16 日	<p>(1) 「文化ファッション大学院大学奨学金規程」改定</p> <p>(2) 夏期北竜湖セミナー内容</p> <p>(3) 夏期特別講座 更なる受講者確保に向けて学園内教員宛に案内、広報の強化。</p>
平成 23 年 6 月 28 日	<p>(1) 授業アンケートの集計・解析 集計等の外部委託を検討。</p> <p>(2) 客員教授</p>
平成 23 年 7 月 26 日	<p>(1) 「単位履修の細則」第 20 条 最大限欠席時数 2 分の 1 の条文。出欠管理は教員に委ねているため、実態に即し、削除。</p> <p>(2) 夏期北竜湖セミナー</p> <p>(3) 会計検査院実地調査報告</p>

開催年月日	会議等の開催記録
	(4) ファッションビジネスメソッド (5) 来年度専任教員候補等
平成 23 年 9 月 9 日	(1) 時間割決定スケジュール (2) 夏期北竜湖セミナー 合同発表会タイムテーブル (3) 「単位履修の細則」第 20 条 (4) 客員教授規程 (5) 前期授業に関する感想 (6) 夏期北竜湖セミナーを公欠する学生の扱い 欠席の場合、後日学校で発表させる。翌年度、北竜館に行かせない。 (7) 2012 年度年間授業日程表 (8) 海外研修会 実施の最少施行人数を予め設定し、事前に案内する。
平成 23 年 10 月 13 日	(1) 2012 年度カリキュラム変更 各コースより来年度担当教員および科目の追加・削除等カリキュラム変更の説明。原案一部修正で了承。 (2) 2012 年度節電休暇振替 節電休暇を 7 月第 3 週とする。時数減の対応策として、4 月 4 日入学式とし、例年より 1 日早める他実施。 (3) 2012 年度追再試期間 (4) 海外からの受験希望者 (5) 修了生への推薦状 (6) 教員選考委員会 新教員採用申請に当たり表記委員会の設置、原案を了承。 (7) 客員教授 セーレン株式会社 川田達男社長特別講義
平成 23 年 11 月 15 日	(1) 2012 年度カリキュラム 小杉先生より来年度科目名称変更の説明。原案通り了承。 (2) 2012 年度授業日程表 一部修正のうえ了承。 (3) 「ファッションビジネスメソッド」内での 3 コース交流 以下の提案あり、今後検討予定。1 グループ 5 人ほどのグループに分け、「アパレルブランド事業づくり」の実習をさせる。それぞれのグループに各コースの学生を入れる。夏期北竜湖セミナー内で発表を実施。(これまで夏期北竜湖セミナー内でしていたコース別ミーティングの内容は、学校で実施。)

開催年月日	会議等の開催記録
	<p>(4) ①FD研修 3月のFD研修について、講師を招いてのレクチャーを検討。文部行政等国の政策にも強くなる必要があるため、文科省、経産省、私大協他の方を招いてのレクチャーを検討。(本年度は旅行形式での実施はしない。)</p> <p>②避難訓練 11/25 15:10～16:10</p>
平成 23 年 12 月 8 日	<p>(1) 2012 年度カリキュラム 各コースより来年度カリキュラム変更の説明。原案通り了承。専任教員は最低週3コマ(通年)は受け持ってもらおうよう事務長より要請、了承。</p> <p>(2) 2012 年度時間割</p> <p>(3) 2012 年度授業日程表 文化祭準備日について、Fクリエイション専攻は3日間必要だが、Fマネジメント専攻は2日間で十分。授業以外でならば、1日を使用してもかまわない旨了承あり。</p> <p>(4) FD研修 日程は3/6・7・14・16のいずれかを検討中。</p> <p>(5) 2012 年度夏期公開講座 インキュベーションで実施するかどうかを含め、今後検討。費用がかかるなら学校でとの意見あり。月・火Fデザインコース、水・木Fテクノロジーコース、金・土F経営管理コースというように設定し、複数コースを選択すると割安に受講できるようにしてはどうかとの提案あり。</p>
平成 24 年 1 月 19 日	<p>(1) 2012 年度カリキュラム 小杉先生、山村先生より来年度カリキュラム変更の説明。原案通り了承。</p> <p>(2) FD研修 日程:3/14。場所:アルカディア市ヶ谷(予定)。講師及び内容:文科省専門職大学院所管担当者、私大協事務局長から教育情勢や今後の趨勢等について講話。授業評価アンケート分析など。</p> <p>(3) 文化服装学院服飾研究科からの進学</p> <p>(4) シラバス・ウェブ化 来年度からシラバスのウェブ公開化へ。2月中にフォーマット記入等説明会。</p> <p>(5) 2012 年度授業開始日</p> <p>(6) 教学関係スケジュール</p>
平成 24 年 2 月 14 日	(1) 2012 年度カリキュラム

開催年月日	会議等の開催記録
	<p>山村先生より、来年度新設科目、科目の分離、担当教員追加の説明。原案通り了承。</p> <p>(2) 休学・復学に関する細則の変更</p> <p>(3) 客員教授・特任教授</p> <p>(4) III期入試出願状況</p> <p>(5) F D研修</p> <p>(6) 教員授業感想</p> <p>(7) 同窓会発足</p>

■ 学生生活委員会

報告者：青木 稔

提出日：平成 24 年 7 月 5 日

<p>本年度の課題 (平成 23 年度)</p>	<p>1.文化ファッション大学院大学における院生の学内生活向上と研学を図り母校の向上発展に資することを目的とする。本年度課題としては下記 5 項目とする。</p> <p>(1) 学生間のコミュニケーションの場の必要性が認められるためその機会を設ける。</p> <p>(2) 学内秩序の維持・向上</p> <p>(3) 留学生支援の対策</p> <p>(4) キャリア支援についての対策</p> <p>(5) 自治会の発足</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1.上記 5 項目についての結果・評価</p> <p>(1) 学生自治会・キャリア支援・留学生支援活動において上記 5 項目を本年度の課題内容とし準備年度として規約・会則立案・セミナーの開催等、活動目標と活動内容を達成することが出来、教授会にて承認を得ることができた。</p>
<p>次年度（平成 24 年度） への課題</p>	<p>1.引き続き院生の学内生活向上と研学を図り母校の向上発展に資することを目的とする。</p> <p>(1) OB・OG会および学生会の発足。</p> <p>(2) キャリア支援・留学生支援。</p> <p>(3) 上記、項目ごとに分科会を設け運営し、計画・決議を学生生活委員会にて議決した後に教授会にて承認を得ることとする。</p>

開催年月日	会議等の開催記録
平成 23 年 6 月 2 日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 副委員長・書記の決定</li> <li>2. 学生生活委員の役割の確認               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 留学生指導・キャリア支援・学生生活委員会、各委員会の前年度活動内容報告。</li> </ol> </li> <li>3. 今後の学生生活委員会活動について               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 規程第 3 条の確認。</li> </ol> </li> <li>4. その他               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学生の自治会結成、キャリア支援など今後の活動内容の提案。</li> </ol> </li> </ol>
平成 23 年 6 月 16 日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生自治会の活動内容について               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学生支援組織を結成し、活動を行うことに決定。</li> </ol> </li> <li>2. キャリア支援について               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 今年度キャリアガイダンス開講について、内容、回数、開催時期などを検討。</li> </ol> </li> <li>3. 留学生関係について               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 今年度日本語スキルアップ講座開講について 内容、テキスト、レベル、価格の再検討。</li> <li>(2) 学生親善大使について 学内案内役として学生親善大使を募集、履歴書提出、書類審査ののち選考。</li> </ol> </li> <li>4. その他               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 委員会内での、学生生活、留学生、キャリア支援の各ワーキンググループ結成について、次回の学生生活委員会にて再考する。</li> </ol> </li> </ol>
平成 23 年 7 月 26 日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. BFGU学生会について               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) BFGUの規約案を作成、9月の委員会にて検討後、教授会にて審議。</li> </ol> </li> <li>2. 留学生の日本語スキルアップ講座について               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 日本語のテキスト案作成、講座の開催について。</li> <li>(2) 各コース、留学生の日本語レベルの状況報告。</li> </ol> </li> <li>3. キャリア支援について               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 研修の内容、回数、時期等、再度検討。</li> </ol> </li> <li>4. BFGU修了生組織（OB・OG会）について               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) すみれ会（学院）、紫友会（文化学園大）の規約を参考にし、BFGUの規約案を作成、9月の委員会の議題とする。</li> </ol> </li> </ol>

開催年月日	会議等の開催記録
平成 23 年 9 月 22 日	1. BFGU学生会について (1) BFGU規約・案について審議。 2. 留学生の日本語スキルアップ講座「テキスト」について 3. キャリア支援「講座」について 4. BFGU修了生組織（OB・OG会）「規約」について (1) 規約案について審議。案を修正し（委員長作成）、委員に再配布、10月次回委員会で議題とする。
平成 23 年 10 月 13 日	1. BFGU学生会「規約」について (1) BFGU規約・案について、追加・削除事項について審議、次回教授会にて現状報告。 (2) 各コース2名学生を選出、第1回学生ヒアリング調査を開催。学生会の活動内容についてヒアリングを行うことに決定。 2. BFGU修了生組織（OB・OG会）「規約」について (1) 平成24年度発足をめざし、会費、会の運営について検討をすすめる、次回教授会にて現状報告。 3. その他 (1) 留学生対象キャリア支援「講座」について 平成24年度にむけてセミナー開講する方向で検討、担当者の決定。
平成 23 年 11 月 15 日	1. BFGU学生会について (1) 規約について、各委員からの提案事項等確認。 (2) 第1回学生ヒアリング調査の結果報告および、学生からの意見・要望への対応策を討議。 (3) 会費、規約等について。 2. BFGU修了生組織（OB・OG会）について (1) 会の名称。 (2) BFGU修了生組織名称を提案、討議、次回教授会にて提案することに決定。 (3) 会長の任期、規約などについて再度検討し、最終決定。 3. その他
平成 23 年 12 月 8 日	1. BFGU修了生組織（OB・OG会）について (1) 会長、事務局等、準備委員会議題とすべく次回委員会で引続き検討。 (2) 会の名称については、準備委員会において会の名称を決定。

開催年月日	会議等の開催記録
	<p>2. キャリア支援について</p> <p>(1) 本年度キャリアガイダンス開催について、回数、スケジュール、内容、対象学年、担当教員について。</p> <p>3. その他</p> <p>(1) 来年度開催のアパレル就活セミナーの学生告知について。</p> <p>(2) 第1回学生ヒアリング調査における学生からの要望に対する解決・対応策をコースごと学生に伝達する。</p>
平成 24 年 1 月 19 日	<p>1. BFGU修了生組織(OB・OG会)について</p> <p>(1) 常任委員会準備委員会進捗状況報告。</p> <p>(2) 第1回常任委員会準備委員会の内容について。</p> <p>2. キャリア支援について</p> <p>(1) 第1・2回キャリアガイダンス結果報告。</p> <p>(2) 第4回キャリアガイダンスにおける人事担当者によるセミナーについて。</p> <p>3. その他</p> <p>(1) 翌月開催の留学生交流総合推進会議について。委員から代表者選出、参加することに決定。</p>
平成 24 年 2 月 15 日	<p>1. BFGU修了生組織(OB・OG会)について</p> <p>(1) 2月4日開催の常任委員会準備委員会の出席状況、役員選出、決議内容など結果報告。</p> <p>(2) 翌月開催予定の「総会」について、会の目的、名称、活動内容など議事項について委員長より説明。</p> <p>2. キャリア支援について</p> <p>(1) 第3回キャリアガイダンス結果報告。</p> <p>(2) 2月4日ガイダンス模擬面接結果報告。</p> <p>(3) 今後のガイダンスについて。</p> <p>(4) 第5回ガイダンスの必要性と内容について、来年度へ向けて検討。</p> <p>3. 留学生支援について</p> <p>(1) 日本語スキルアップ講座について。</p> <p>(2) 文科省「留学生交流総合推進会議」参加報告。</p>
平成 24 年 3 月 8 日	<p>1. BFGU修了生組織(OB・OG会)について</p> <p>(1) 今月開催予定の「総会」について、出欠返信状況、参加委員など確認。</p> <p>2. キャリア支援について</p>

開催年月日	会議等の開催記録
	<p>(1) 上海で開催された「企業懇談会」報告。</p> <p>(2) 3月9日開催の株式会社エイネット 人事担当者による「特別就職セミナー」について。</p> <p>(3) 4月末開催のアッシュ・ペー・フランス株式会社によるキャリアガイダンスについて。</p> <p>3.BFGU学生会について</p> <p>4.留学生支援について</p> <p>(1) 東京外国語大学で開催されたシンポジウムについて、参加委員より、内容、各校の取り組み、成功事例について報告。報告をもとに今後の日本語スキルアップ講座、委員会活動について検討。</p> <p>5.その他</p> <p>(1) 来年度の委員会活動について、学生支援の方策を検討。</p> <p>(2) 委員会の中でワーキンググループを以下のように結成、来年度発足することに決定。</p> <p style="padding-left: 40px;">・OBOG会 ・キャリア支援 ・学生会 ・留学生支援</p> <p>(3) 各ワーキンググループで年間スケジュール、活動内容を検討し、来年度第1回委員会で報告。</p> <p>(4) 今期就職率について、委員長より報告。</p>